

標本は歴史の証

標本は、その生き物がその時代にその場所に存在したという確かな物的証拠となるものです。ひとつひとつの標本がそのときの大切な記録であり、それらの記録をまとめることで、私たちは過去から現在に連なる自然の歴史を知ることができます。

二度と戻ることのできない過去の情報を未来へと繋いでいくもの、それが標本です。



外来種の侵入と分布拡大を知る

ムネアカハラビロカマキリは、近年日本各地で確認されている外来種です。在来種のハラビロカマキリに似ていることなどから発見が遅れ、豊田市では2013年に初めて定着が確認されました。保管していた過去の標本を見返したところ、2010年以降に市内で採集された標本のほとんどがムネアカハラビロカマキリであったことから、この頃に豊田市に侵入・在来種との置き換わりが始まったと考えられます。

標本の長所は再検討が可能な点です。このように残された標本を遡ることによって、外来種の侵入や分布の変化なども知ることができます。



オモダカ(腊葉標本)
Sagittaria trifolia

標本の収集・保管

標本は豊田市の自然の歴史を未来へと伝える財産であり、生物多様性の保全における重要な基礎情報となるものです。

標本資料館では標本の収集、ときには作製も行います。こうして得た標本は、適正な温湿度に保たれた収蔵庫で大切に保管しています。



アオサギ(翼標本)
Ardea cinerea



標本の展示・活用

標本資料館では、豊田市の貴重な生物多様性情報を多くの方に知ってもらい、研究や教育活動に役立ててもらうため、研究等を目的とした標本の閲覧、見学の対応や企画展示、他館への標本の貸出しなどを行っています。

また、地球の生物多様性情報を収集・提供している機構であるGBIF(地球規模生物多様性情報機構)や日本の科学系博物館などが所蔵する自然史標本情報を検索できるポータルサイト「サイエンスミュージアムネット(S-Net)へ標本情報を提供・公開しています。



収蔵標本の検索

  <http://science-net.kahaku.go.jp/?dic=TCNS>

  <https://www.gbif.org/ja/>



キアゲハ(昆虫標本)
Papilio machaon